

2018年8月22日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

2018年度 SPARC Japan 事業の進捗報告

第5期基本方針のもと、2018年度は次のプロジェクトを実施している。

1. SPARC Japan セミナー **2. ①②への対応**

アドボカシー活動として、SPARC Japan セミナーを数回実施する。2017年度同様に企画ワーキンググループを設置し、年間テーマを策定の上、年間テーマに沿って、各回の企画・実施を行っている。

2017年度は、セミナー当日に動画中継やTwitterを活用して、同時に自由に多くの人が視聴し参加できるよう工夫を行った。これが好評であったため、本年度も継続して行う予定である。また、ドキュメント及びニュースレターを作成して、ウェブサイトで公開する。

第1回は9月19日（水）に、第2回は10月下旬、第3回は11月上旬に開催予定であり、第4回は1月以降として現在企画中である。【資料2-2-1～2】

2. 海外動向調査 **2. ③④への対応**

2018年度に予定されている下記の国際会議に参加し、情報収集を行う。

- ・ COAR Annual Meeting 2018（5月14-17日、ハンブルグ）
- ・ RDA 12th Plenary Meeting（11月5-8日、ハボローネ（ボツワナ））
- ・ PIDs workshop（8月27-28日、シンガポール）
- ・ IDF Strategic Meeting, PIDapalooza（1月23-24日、ダブリン）
- ・ ETD (Electronic Theses and Dissertations) 2018（9月26-28日、台湾）

3. arXiv.org コンソーシアム事務局 **2. ①②への対応**

arXiv.org のコンソーシアム事務局として、arXiv.org の事務局とコンソーシアム間の連絡・意見調整を行う。また、国内会員機関からの年会費をNIIがとりまとめて支払う。その他、日本コンソーシアムの代表である引原京都大学図書館機構長が9月末に任期満了となることから、SPARC Japan 運営委員会委員長の武田教授が代理でMAB (Member Advisory Board, 10月2日) に出席予定である。【資料3-1】

4. SCOAP³ 支援 **2. ①②への対応**

SCOAP³ フェーズ 2 (2017-2019 年) における日本の大学図書館からの拠出金を, NII がとりまとめて支払う。【資料 3-2】

5. CLOCKSS 支援 **2. ①②への対応**

CLOCKSS について, 日本の大学図書館からの会費を NII がとりまとめて支払った。【資料 3-3】

6. 論文公表実態調査 **2. ④への対応**

2017 年度に引き続き JUSTICE と連携して, 日本の論文公表実態調査のフォローアップを行っている。【資料 4】

7. SPARC Japan 年報の発行 **2. ②④への対応**

2013 年度より, 活動記録のために年報を日本語及び英語にて発行している。内容としては, 当期の基本方針, 当年度活動内容 (セミナーの記録ほか), 委員会等の開催記録, 委員会等の名簿, 総合年表の他, SPARC Japan ニュースレターを再掲している。2016 年度年報 (英語版) 及び 2017 年度年報 (日本語版) を, 本年度中に発行予定である。

8. 高エネルギー物理学分野の情報サービスに係る国際連携協定への対応 **2. ③への対応**

2015 年 10 月に, CERN が提供しているデータベース INSPIRE の高エネルギー物理学分野の研究論文や研究者情報等の品質向上に関して, 日本人研究者に関するキュレーションに協力する協定を, CERN, NII 及び KEK で締結した。

この協定に基づき, NII の実務研修の枠組みを利用して, CERN においてキュレーションの作業に従事する大学図書館員等の受け入れを行っている。

(参考)

今年度は, 派遣に係る負担軽減やキュレーション作業の継続性の観点から, 日本国内でのキュレーションの実現性について NII, KEK 及び京都大学関係者が検討するため, 「キュレーションタスクフォース」を NII 内に設置した。今後はこのタスクフォースにおいて, 日本国内でのキュレーション作業の体制構築を進める予定である。